

# 指数・対数についての基本的な性質

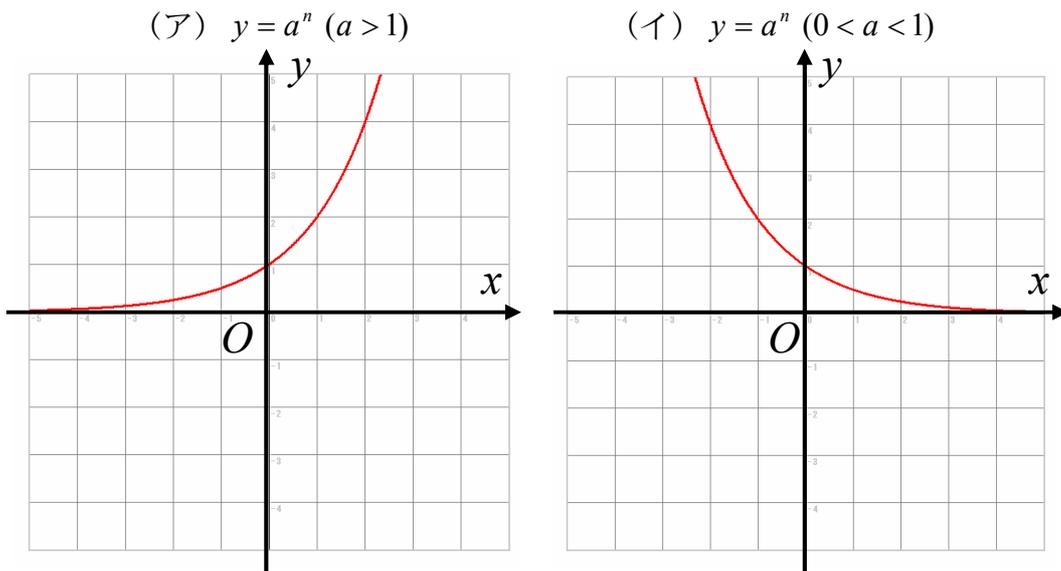
平成19年11月13日

河野愛一郎

## 1. 指数

$$a^0 = 1 \quad a^{-n} = \frac{1}{a^n} \quad a^{\frac{1}{n}} = \sqrt[n]{a} \quad a^m a^n = a^{m+n} \quad \frac{a^m}{a^n} = a^{m-n}$$
$$(a^m)^n = a^{mn} \quad (ab)^n = a^n b^n$$

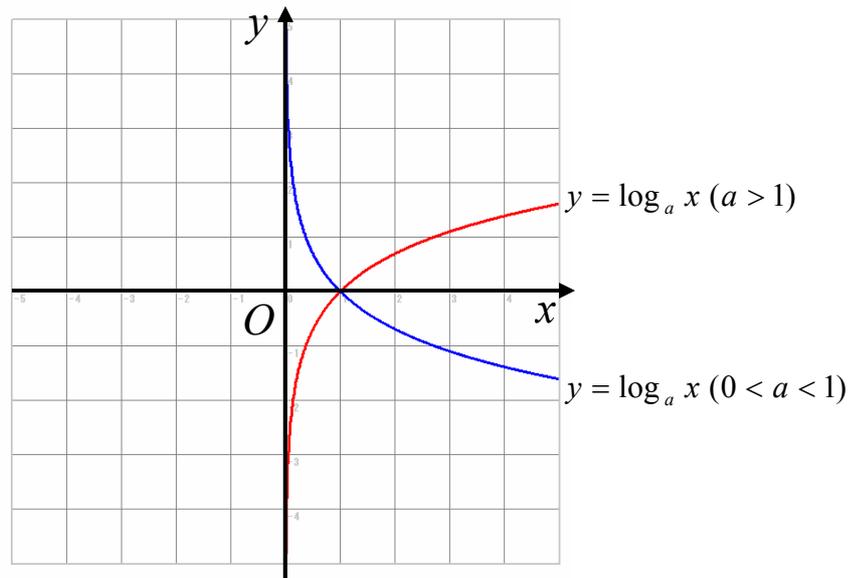
<指数関数のグラフ>



## 2. 対数

$$a^m = X \Leftrightarrow \log_a X = m \quad (a > 0, a \neq 1, M > 0)$$
$$a^{\log_a X} = X \quad \log_a a = 1$$
$$\log_a XY = \log_a X + \log_a Y \quad \log_a \frac{X}{Y} = \log_a X - \log_a Y$$
$$\log_a X^N = N \log_a X \quad \log_a X = \frac{\log_b X}{\log_b a}$$

<対数関数のグラフ>

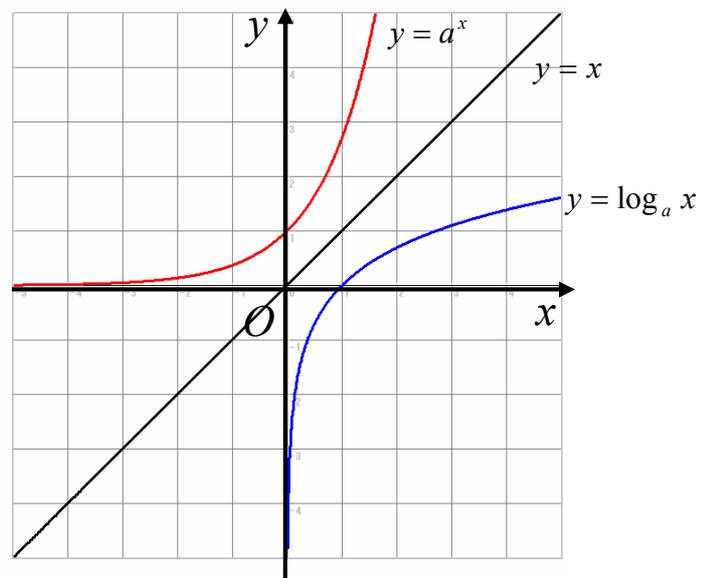


c f :  $a^x = y \Leftrightarrow \log_a y = x$

よって、 $y = a^x$  と  $y = \log_a x$  は、 $x$  と  $y$  に関して対称的

$\therefore xy$  平面では、 $y = a^x$  と  $y = \log_a x$  は、 $y = x$  に関して線対称となる。

以上をグラフで示したものが以下である。(  $a > 1$  )



## 付録1 指数法則の応用

$$a^0 = 1, \quad a^{-n} = \frac{1}{a^n} \quad (a \neq 0) \quad \text{となる理由}$$

指数法則： $a^m a^n = a^{m+n}$ 、 $(a^m)^n = a^{mn}$ 、 $(ab)^n = a^n b^n$  ( $m, n$  は正の整数)

を使って、 $a^0 = 1$ 、 $a^{-n} = \frac{1}{a^n}$  ( $a \neq 0$ )を示す。

$a \neq 0$ とする。このとき、指数 $n$ が0や負の整数の場合にも、 $a^n$ の意味を、上の指数法則が成り立つように定めよう。

まず、 $n = 0$ のときに、 $a^m a^n = a^{m+n}$ が成り立つとすると、

$$a^m a^0 = a^{m+0} \quad \text{つまり} \quad a^m a^0 = a^m$$

両辺を $a^m$ で割って消すと  $a^0 = 1$  だといえる。

次に、 $n$ が正の整数で、 $m = -n$ のとき、 $a^m a^n = a^{m+n}$ が成り立つとすると、

$$a^{-n} a^n = a^{-n+n} = a^0 \quad \text{つまり} \quad a^0 = 1 \quad \text{より} \quad a^{-n} a^n = 1$$

両辺を $a^n$ で割って移項すると  $a^{-n} = \frac{1}{a^n}$  だといえる。

ちなみに、これらを使って以下のことが言える。

$$\cdot \frac{a^m}{a^n} = a^m \cdot \frac{1}{a^n} = a^m \cdot a^{-n} = a^{m+(-n)} = a^{m-n}$$

$$\cdot \left(\frac{a}{b}\right)^n = (a \cdot b^{-1})^n = a^n (b^{-1})^n = a^n \cdot b^{-1 \cdot n} = a^n \cdot b^{-n} = a^n \cdot \frac{1}{b^n} = \frac{a^n}{b^n}$$

(分かりにくかったら、文字に数値を代入して考えよ。)